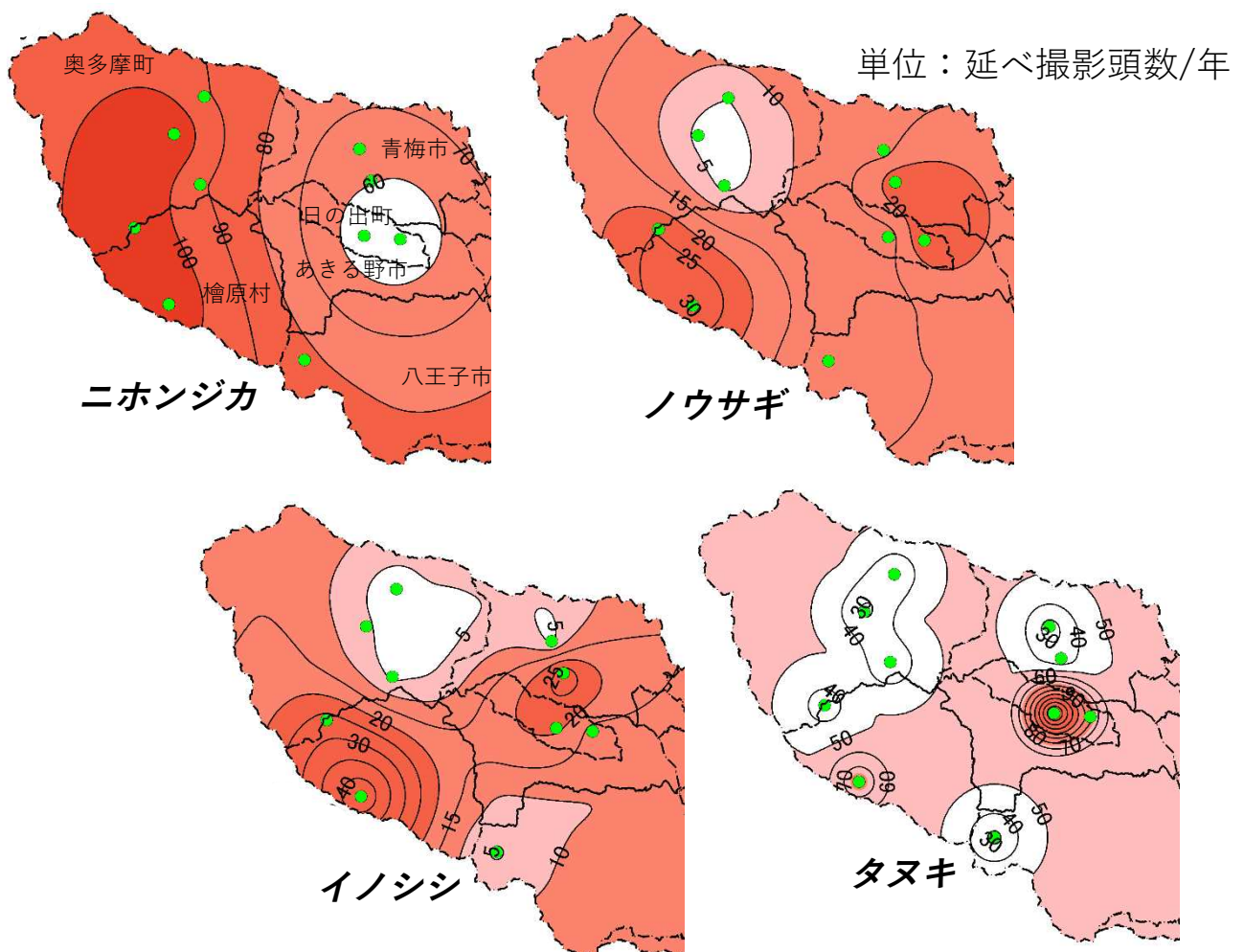


東京都多摩地域における野生動物の密度分布

東京都農林総合研究センター 緑化森林科

新井 一司

多摩地域の森林では、毎年、数十ha規模の伐採が行われ、スギ、ヒノキ、広葉樹などの苗木が植栽されている。この植栽木を加害する主な野生動物はニホンジカである。近年、ニホンジカ以外にノウサギやイノシシなどによる苗木への直接被害、化学繊維製のシカ柵がタヌキ、ノウサギなどによって噛み切れられ、その穴からニホンジカが侵入するという間接的な被害が確認されているが、これらの野生動物の分布は、不明である。そこで、センサーカメラの画像から、各動物の密度分布図を作成した。



●ニホンジカの密度は、多摩の西部で高かった。これに対し、ノウサギ、イノシシ、タヌキは、東部や南部で高かった。したがって、ニホンジカの密度が低いエリアほど、他の野生動物による被害が混在する可能性が高く、どの野生動物による加害なのか的確に判断することが求められる。さらに、このシカ低密度エリアほど、シカ柵にはタヌキなどに噛み切られない金属製などの丈夫な素材を使用する必要がある。

●現在、センサーカメラで撮影された大量の画像に対して、野生動物の同定・計数を人力で行っている。今後は、野生動物種の自動同定技術が求められる。